

会 議 録

会議名	平成 28 年度第 1 回 八王子市市史編さん審議会	
日 時	平成 28 年 12 月 17 日（土）午前 10 時 00 分～午前 11 時 35 分	
場 所	八王子駅南口総合事務所 会議室（サザンスカイタワー八王子 4 階）	
出席者氏名	委 員	松尾正人会長、相原悦夫副会長、池上裕子委員、井上晶宏委員、 上田幸夫委員、落合 隆委員、岸本弘子委員、光石知恵子委員
	理事者	
	事務局	布袋孝一市史編さん室長、齋藤和仁市史編さん室主幹、 佐藤 広市史編さん室専門管理官、長谷部晃一市史編さん室主査、 秋山和英市史編さん室主査
欠席者氏名	前田成東委員	
議 題	【審議事項】 1. 『新八王子市史』の進捗状況について 2. 刊行物についての意見交換 3. その他	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 平成 28 年度市史編さん事業の組織体制（平成 28 年 11 月現在） 2. 市史編さん事業における刊行物刊行実績及び計画	

会議の内容

1. 開会

【松尾会長】平成28年度第1回八王子市市史編さん審議会を開催する。委員の出席状況だが、現在7名の出席があり、審議会は成立している。また、傍聴については現在のところないが、希望があった場合はその時点に対応する。会議録の署名は、井上委員にお願いする。

2. 『新八王子市史』の進捗状況について

【松尾会長】事務局から報告をお願いする。

【齋藤主幹】市史編さん事業における刊行物刊行実績及び計画について報告する。平成27年度は6冊の刊行を計画し、全て計画どおりに刊行することができた。『新八王子市史』は、資料編・本編合わせて14冊と17冊の附帯刊行物、合計31冊の刊行を計画し、現在までに27冊の刊行を終えた。平成28年度は本編4冊の刊行となり、順次編集を進めているところだ。事業も終盤に差し掛かり、他市町村からもこれまでの実績を評価してもらい、また、刊行物は一般書店でも目にすることが増えたことで、市民の注目度も上がってきている。平成29年は、いよいよ市制100周年を迎える。100周年を記念した事業はたくさん計画されているが、最大のレガシーとなるのは市史編さん事業ではないかと感じている。多方面から叱咤激励をいただきながら、何とかここまでたどり着くことができた。残りの4冊を無事刊行し、審議会での最終報告も良いものとなるように進めているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【松尾会長】質問等はあるか。

【落合委員】刊行物は、図書館等に配付しているのか。

【齋藤主幹】八王子市はもちろん、多摩地域を含めた都の関連施設に配架をお願いしている。八王子市内は、大学、高校、中学、小学校、全てで配架をお願いしている。

【落合委員】書庫にしまい込むのではなく、見える形で置いてもらい、たくさんの人の目に触れるよう、ぜひアピールしてもらいたい。

【松尾会長】市の図書館であれば、来館者の一番目につきやすい場所に置いてもらいたい。

【井上委員】八王子市の各図書館には何冊ぐらいずつあるのか。

【齋藤主幹】状況やニーズに応じて、フレキシブルに対応している。

【井上委員】市の図書館に行っても、市史となると厚くてなかなかじっくり読めない。複

数冊用意し、貸し出すことで市民がじっくり読めるようにしてもらいたい。

【長谷部主査】八王子市の各図書館には3冊ずつ、特に中央図書館には10冊ずつ配付している。使っていくうちの汚損などを考慮して、各図書館3冊ということにしている。多くは配架されているのではないか。

【相原副会長】市史編さん事業も9年目になり、残りあと4冊となった。編さん事業としては、10年というのはとても短い期間だ。その中で、これだけの刊行物を順序よく刊行してきたことは、他市と比較しても非常に驚異的だ。八王子市の取り組み方は、素晴らしいものだと評価されるのではないか。当初より、市民と一体となり、市民の意見を反映するといったコンセプトのもと取り組んできた。ふんだんにある資料を十分に解析し、なおかつ、市民の意見をつぶさに取り入れてきた。特に民俗編では、過去の八王子市史にはなかった部分を補完しているが、なかなかこのような作業は難しいと思う。100周年という非常に良いタイミングに合わせて刊行されてきた市史も残りあと4冊。無事に刊行できれば、100周年にふさわしい事業になるのではないかと思う。

【光石委員】ここまで本当によくやってきている。編さん事業は、期間の延長があたりまえと認識しているので、予定どおりというのはよく頑張っていると思う。

市史は一般的に取っつきにくいところがある。しかし、知り合いや団体などから内容について聞かれると、そこまで読んでいるのかとびっくりする。体裁もとても良く、資料もよく使っている印象がある。つい最近、「八王子写真民俗誌」について、八王子市出身の女性が同じグループの方に見せていた。八王子市出身同士、自分たちが育った時代のものということで、お互いにああだこうだと話題にしていた。あの写真もやっぱりよく集められていて、感心させられる。

【上田委員】ある町会長から誤りを指摘されたが、その時に、よく見ているなど感じた。指摘も鋭く、それだけよく見てくれていると思いき、うれしく感じた。

それから、学校評議員を務めているが、児童から社会科の授業の一環でインタビューを受けた。内容は、町会行事を調べるということで、「夜警」について聞かれた。どうしてだろうとよく聞いてみたら、どうやら、以前校長室に飾ってあった市史を、担任が教材として使っているようだった。きっと子どもたちに市史を授業で見せていると思う。写真がふんだんに使われているし、子どもたちなりに、細かい部分までは読み取れないとは思いますが、そんなに難しい言葉を使っているわけでもないから、それを読み取って、ここ調べたいなということだと思う。先生が選択したのかもしれないが、教材として取り上げているというのを感じた。今、「夜警」という言葉は子どもたちにはなじみがないものだ。「函館の夜景を見に行ったら、とてもすばらしかった」の「夜景」と違い、「夜警」になじみのない子どもたちが調べたということに意味があり、自分たちの地域を大人がこうやって守っているというような、郷土愛につながるようなものを感じて欲しい。自分の地域は自分たちで大事にしている、あるいは大事にしなければいけないという思いが子どもたちにもきっと伝わったと思う。

【松尾会長】 校長室に置くだけでなく、上手に活用してもらいたい。表紙も子どもたちの興味を引きそうなデザインとなっている。

【上田委員】 校長が市史をどのように扱い、先生方に普及していくか、また、その程度や言い方によってすごく違ってくる。担任がそれを受けて、どう子どもたちに伝えるかによっても全然違う。市史がそれなりにいいもので、学校側も使っているというのを最近感じるようになった。

【松尾会長】 かつての自治体史は、表紙にカラーなど使っていなかった。

【上田委員】 写真もたくさん入っており、とても良い。

【松尾会長】 子どもたちにも見やすく、利用しやすく、関心を持てるようなものになっている。

【上田委員】 写真にちょうちんが写っている。子どもたちはちょうちんなんて、お祭りで見えない。夜警でも使っているというような見方もしてくれていると思うと、なかなかいいと思う。

【相原副会長】 12月に地域の子どもたちに対して講演をした。八王子の成り立ちや町会の意味などを話した。その中で、現在八王子市は、市史の編さんに取り組んでいることを話した。来年、創立70周年を迎える学校が、記念誌をつくりたいというようなこともあって、参考に話した。来年末にはできあがると思うが、そういった場面においても、この市史編さんの作業が花開くということもあるのではないかと思う。単に配架をして、特定の人だけというのではなく、不特定多数の人に広くこの市史編さん事業の意義を認識してもらいたいと思っている。そういう意味でもタイミングが非常にいい作業ではないかと思っている。

【井上委員】 通史編の中世について、後ろに資料が載っている。このことについて伺いたい。

【池上委員】 私が担当した。本来であれば、資料編にすべての資料を掲載したかったが、ページ数の都合から省いたものがある。また、資料編の刊行後も資料調査を続けており、新しく見つかったものもある。それを含めて、今回、通史編の後ろに補遺という形で載せている。今後の研究により貢献できるように、そういった思いで載せている。まだまだ出てくるとは思うが、ここまでの間でできるだけ探したものを活字にして、皆さんに提供するという、そういう気持ちで載せている。

【齋藤主幹】 ほかの時代区分のものはどうなのかという議論にもなるので、僭越だが補足する。近世・近現代は膨大な資料が存在し、とても載せ切れない。本当に貴重なもの、あ

るいは新しいものを中心に選択して掲載している。

それに対して中世は、新しい文書の発見はなかなか望むことができない。このことを踏まえて中世部会では、日本全国に散らばっている八王子にかかわると思われる文書を全部集約している。この本を見れば、八王子の中世のことはすべてわかるというものを作り上げるというコンセプトで取り組んできた。資料編刊行時にはまだ見つかっていなかった資料や、ページ数の都合で漏れた資料を通史編に盛り込み、資料編と通史編の2冊で、現行の研究における八王子市の中世の決定版と言えるようなものを作っていた。中世部会の方々には、それだけの苦勞を積み重ねていただき、感謝している。

【松尾会長】八王子城に足を運ぶ人が増えているように思うが。

【池上委員】若い人が増えている。山頂まで登るのがそれほど苦ではなく、さっさと行ってきたというような話を聞く。

【松尾会長】八王子城についての記述を読み、図の掲載もあるし、八王子城に興味を持つ人が増えたのではないかと改めて思ったところだ。

【池上委員】八王子城については、麓にガイダンス施設もできた。中世の場合は、八王子にかかわる人物が、ほかの地域でもかかわりを持っているという、割と全国的な足跡がある。八王子市史の中世編が刊行されたことが、より広い範囲の人に知れ渡れば、購入希望者も増えるのではないかと。宣伝や問い合わせはどのような状況か。

【齋藤主幹】中世編の売れ行きは非常に良い。特に他府県から、郵送での購入希望が多い。中世の研究者は、関係書籍が刊行されれば、全国から取り寄せて自分の手元におきたい方が多いように感じる。そこは上手に工夫して宣伝していきたい。

【相原副会長】個人で「観池山大善寺研究」という冊子を、今までに2号出している。3号は、浄土宗全書の中の大善寺史を含め「近世大善寺史表 中世」というタイトルで製作しており、約80ページになる予定だ。

その中で、近世の資料編を参考に、大善寺の十夜法要の取り締まりについて触れる。これまで、その関連資料は表に出てこなかったが、『新八王子市史』の近世の資料編に出てきたので、十八檀林の大善寺資料として載せたいと考えている。従来、目に触れられなかった、知り得なかった資料が出てきた。今後、あらゆる場面でそのような資料の利活用が望めるのではないかと。大善寺の資料は散逸しており、ほとんど見つからない状態。1点でも2点でも埋もれていたものが外に出てくれば、将来に残せる。非常にありがたい。

【松尾会長】ほかにどうか。事務局に懸案事項などはないか。

【齋藤主幹】強いて挙げるとすれば、研究者はもとより、市民から資料が見たいという話が多少出始めているが、資料はあくまで、市史の編さんのみを目的として借用しているた

め、見せることができない。刊行物への掲載には、改めて許可をもらっている状況だ。なぜ最初から、情報開示も含めて借用しないのかと言われるが、個人情報も含まれるので、目的が多岐に渡ると借用を断られることもあるからだ。今まで膨大な数の資料を借用してきたが、情報開示を前提にすると、その数はぐっと減ってしまうと思う。

また、資料は将来的には公開し、活用しなければと考えてはいるが、まず、市側で詳細まで見直さないといけない。所有者の使用の応諾が取れても、所有者が把握をしていない情報、例えば差別的な事柄や、現在生活している人たちに影響を与える部分は伏せるなど、市側は全部検査して、公開しなければいけない。このような背景から、公開できる状況には至っていないと説明している。

それから、これまでに刊行した八王子市史からの引用の許可依頼も出てきている。

【松尾会長】資料編を見ていて、ある資料に目が留まれば、その前後の資料にも興味がわく。閲覧をお願いしたいが、それは編さんとはまた別の次元、してはいけないし、抑えなければいけない。気持ちとしては、気になる資料が載れば前後があるだろうと思い、見たい、見たいとなるのが正直なところだ。恐らく市民の方でも、同じように考える人もいるだろう。また、他市町村の行政関係者などから、掲載資料の展示要望などもあるのではないかな。

【齋藤主幹】八王子市の郷土資料館で、企画展に掲載資料を使った。他市町村からも相談はある。

【松尾会長】それだけ注目されていて、いいものがあるということだ。

【上田委員】町会自治会連合会の会合が毎月1回ある。民俗調査報告書の編集にあたり、取材協力をお願いした折に既刊の実物を見せたら、半数ぐらいの人はそんな立派な資料があるのかとびっくりしていた。それから、既に取材を受けた人は、根掘り葉掘り聞かれ、そんなに細かいところまで聞くのかと言っていたが、でき上がりを見たら、今度は逆に自慢している。その話を聞いて、受け答えをするのも、その時点では大変だが、でき上がってきたものを見ると、自分たちの地域が取り上げられているという誇りからか、見せびらかしたいという、そういう気持ちになるのかと感じた。

【井上委員】民俗編は実際に聞き取りをする。取材を受けるのはうれしいのではないかな。身近にあるものが研究書に載り、きちんと整理されていることに驚いた。それが残っていくので、次の世代の子どもたちにも伝わる。私の子どもたちが通っている小学校は、地域の方々が学校に来て、わら草履をつくって、実際に足にあわせて編んでくれる。それが生活に根差していて、子どもたちにもきちんと伝えられている。

また、写真民俗誌は見ていて楽しい。下に短い解説がついているが、丁寧に書いてあり、飽きずに見ていられる。後半にはお祭りの写真もあり、とてもいいものになっている。子どもたちも喜んで見られるのではないかな。小学生が見ても楽しいし、また、中学生が見ても楽しい。子どもたちに、八王子という街の素晴らしさを伝えられたらいいと思う。

【岸本委員】最近、地域の歴史を学びたいという市民の方の意欲を感じる。八王子の昔を学ぼうというサイトがあり、これに参加している。日本史を教えており、自身の勉強も兼ねて説明を載せている。例えば、日露戦争時甲州街道沿いに建てられた凱旋門や忠魂碑についてなど。それから、浅川地下壕に行ったが、これに関して説明をしたところ、市民の方はすごく興味があるようだった。浅川地域に空襲があつて、たくさんの住民が亡くなったということを知らなかったで、このことに対してのやりとりはとても勉強になった。また、滝山城についても、下草を刈るなどして、遺構が見えるように努力している地域の方がいる。例えば、ここに曲輪があつて、ここが池だったと想定できる場所を守るために、地域の方が努力しているのは本当にありがたい。

【落合委員】新郷土資料館についてのパブリックコメントを実施しているが、市史編さんでの資料をどのように活用していくのか。

【光石委員】これからの課題は事後処理だ。収集した歴史資料はすごい数になる。すでに郷土資料館にある歴史資料も合わせて、これをどうやって活かしていくか。今後の大きな課題だ。公文書館が数年前に他県で作られたが、うまく活用できていないようだ。原因として考えられるのは、公文書館には柱として役所の行政文書があり、それから、この市史編さんで使ったような歴史資料といった柱がある。これらの棲み分けができていくかどうか。行政文書というのは保存期間が決められているが、歴史資料は性格が違う。公文書館に収められてしまうと、限られた担当者で扱うこととなり、歴史資料として、時代区分ごとにそれぞれ読みがわからないと扱えないが、適切な担当者がいないこととなる。経費が枯渇してくると、担当者は一人しかいない場合も考えられる。

歴史資料を見たいときも、公文書館では簡単にはいかない。博物館や郷土資料館が扱うのは歴史資料のみなので、それなりの分類や整理が行き届き、目録ができていくので、すぐに活用できる。だから、公文書館で歴史資料を活用するというところに疑問がある。これは今後の課題になってくるのではないか。

私見になるが、歴史資料はあくまで、歴史資料という形で保存し活用してもらいたい。行政文書とは性質が違う。途中で廃棄してはいけないものだ。活用するにあたって、時代区分ごとにしっかりと整理しておけば使いやすい。八王子市は体制がまだ整っていないが、今後は、たくさんの方々が利用することになると思う。

【上田委員】教育センターに土器類が保管されている。知っている人は知っているが、知らない人は全く知らない。もったいない気がする。

【池上委員】新郷土資料館の話が進んでいるが、この審議会でも、市史編さんの過程で集めた資料についての保存や活用について、方向性を示し、提言ができるとう良い。新郷土資料館は、研究機能を充実させていきたいという考えがある。編さん事業で収集した資料は、これからの研究のための重要な資料だ。それらの扱いについて、検討しても良いのではないか。八王子市は中核市だ。きちんとした公文書館が必要だろうと思う。市史編さん事業は終わりに近づいており、その成果や財産をきちんと後に受け継いでいくということを考

えないといけない。

【松尾会長】事後処理はとても大切なことだ。市史編さん事業終了後について、行政でも検討されているのではないかな。

【相原副会長】具体的な形には、まだなっていないと思う。行政文書には保存年限がある。規定を作らないと、散逸してしまう。重要度で分類する規定を作り、保存すべき文書なのかどうかの判断をしないと、担当者の私意によって散逸してしまう。

学校においても、校長の考えによって、資料が捨てられてしまう。歴史資料に関心のあがる校長なら保存するだろうが、そうでなければ捨てられてしまう。このような事態を避けるためにも規定が必要だ。保存すべきかを判別して、公文書館内に送るといったシステムをつくらないといけない。最近ではパソコン管理が主流になっているが、例えば昭和40年代ぐらいまでの手書きの重要文書などがあれば、今の時点から保管をしておかないといけない。そうでないと、将来重要なものが残らない。

【佐藤専門管理官】今回の市史編さんで、行政、市民それから学術的な観点から、それぞれどんな成果があったのかをきちんと把握すべきだ。そして、市史編さんでの課題は何か、何が残ったのかということを確認にすることが大事だ。その作業をすることで、将来に対しての説得力のある意見を述べるができると思う。分析をすることで、次の市史編さんへの橋渡しができると思う。

【齋藤主幹】新郷土資料館については、市史編さん事業が終わった時点では存在しない。とはいえ、現郷土資料館に、これまでに収集した資料を持っていくスペースも当然ない。今後、収集した資料をきちんと保存し、将来的に市民に情報公開することを考えなければいけないが、新郷土資料館の計画がある一方で、別途新しい建物を建て、そこに保存するという話にはならないだろう。もちろん決定ではないが、現時点では、稲荷山を継続して利用することが自然だろう。

審議会では、長野市公文書館を視察した。その後、事務局は、札幌市公文書館と名古屋市市政資料館を視察した。どれも既存施設を利用した公文書館的施設であり、かつ、市史編さん事業の終了を契機に文書館に移行したという経緯がある。八王子市にあてはめた場合の課題は、①耐震 ②消防設備 ③温湿度管理 ④スペースの確保 ⑤人材の確保だと考えている。このあたりを考慮しながら、引き継いでいきたい。

【相原副会長】市史編さん事業の終了後、資料の整理と並行して叢書の刊行をやっていた自治体がある。八王子市も参考にすれば、人材の確保につながるのではないかな。資料の保管だけだと、人材の確保は難しいと思う。

【松尾会長】刊行物を見れば、その背景にある資料も見たくなる。何らかの施設で公開されないといけないが、場所や人材については重要な問題だ。審議会としても考えていきたい。

【相原副会長】 審議会としては、文書で要望を提出するのが良いと思う。

【光石委員】 他の自治体の様子を聞くと、やはり人材の確保が難しく、資料の整理・保存ができないようだ。現在の状況に鑑みると、収集資料を置いておけるのは稲荷山しかないと思う。設備やスペース、それから一番大事な人材を整備しながら、膨大な資料を整理・保存してもらいたい。その後、新郷土資料館ができれば、そこに稲荷山の施設をそのまま移設するようなイメージで、歴史資料と公文書をそれぞれ別々に管理してもらいたい。同じ敷地内であれば、別々であってもカバーできる。資料として活用できると思う。

【上田委員】 人材のことについて。郷里の話になるが、路面電車の石畳の上に芝生が植えである。興味があり、話を聞きたかったが、関係者が異動してしまい聞けなかった。それでも知り合いを頼り、10日ほどしてから何とかコンタクトがとれた。編さん事業も同じで、きっと関心のある人は何年後かに問い合わせをすると思う。そのときに、しっかりと話せる人がいてほしいと思う。

【池上委員】 やっぱり人が大事だと思う。稲荷山に資料を置いておく、では終わらせないで、それらの資料と密接にかかわり、利用する事業を継続してやっていく必要がある。そのためには、資料整理や問い合わせに応じる人材が不可欠だ。そういった人材を確保する方策も考えてほしい。刊行が終わり、現在わかっていることは提供できていると思うが、これで終わりではない。今後も続くのであるから、研究場所の確保という観点からも、人材の確保は必要と思う。

【松尾会長】 収集資料は整理・保存し活用しないといけない。

【相原副会長】 次回の審議会では、意見を集約し、文書で要望を提出できると良いと思う。

3. 刊行物についての意見交換

【松尾会長】 事務局から刊行物について、紹介をお願いします。

【長谷部主査】 平成27年度に発刊した6冊の刊行物について説明する。

①「新八王子市史 通史編2 中世」

鎌倉時代から戦国時代までの八王子の動きを、統治する領主たちの動向と地域で暮らす人々の営みの両面を描いた。また、「資料編2 中世」刊行後に見出した資料を、資料編補遺として収録した。発行部数1,500部。A5判931ページ。価格3,000円。

②「新八王子市史 通史編5 近現代(上)」

明治から昭和戦前期までを取り扱い、本市が近代都市として発展していく過程を描いている。発行部数1,500部。A5判814ページ。価格3,000円。

③「新八王子市史民俗調査報告書 第5集 八王子市中央地域 旧八王子町の民俗」

「新八王子市史」民俗編の刊行に向けて、その基礎資料を得るために旧八王子町地区で

行った民俗調査の成果をまとめたもの。発行部数2,000部。A4判421ページ。販売価格1,000円。

④「新八王子市史自然調査報告書 八王子市動植物目録」

八王子市域における植物（維管束植物・コケ植物）、きのこ類、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、貝類、昆虫類、クモ類について、実態調査や標本調査、文献調査等を実施したものを収録した。発行部数2,200部。A4判562ページ。販売価格1,000円。

⑤「八王子市史叢書4『宗門人別帳集成』」

宗門人別帳は、江戸時代に戸籍簿の役割を果たした帳簿。戸（家）ごとに戸主とその家族および奉公人の名前・年齢・性別・続柄・宗旨・檀那寺などを記載している。江戸時代の人口動態や家族形態などを調べるのに有効な史料。発行部数1,200部。A5判342ページ。価格1,000円。

⑥「八王子市史叢書5『八王子写真民俗誌』」

民俗調査の際に収集した写真資料の中から、民俗事象が写し込まれた写真を収録してまとめたもの。発行部数1,500部。A5判380ページ。価格1,000円。

市内の小中学校、高校、大学、都内の公立図書館などに無償配布してある。市政資料室、八王子駅南口総合事務所、郷土資料館、市史編さん室で販売している。八王子市内の3書店でも販売している。

4. 閉会

【松尾会長】これで終了する。

平成28年12月17日

会議録署名人 井上晶宏